

日本海スルメイカ漁場開発調査

(東奥丸・イカ類漁場調査, 青鵬丸・魚群情報速報事業)

兜森 良則・田村 真通・中田 凱久
赤羽 光秋・天野 勝三・鈴木 史紀

発表誌名

イカ釣漁場開発調査資料X(昭和60年3月)及び昭和59年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測基礎資料集

抄 録

昭和59年6～12月の期間, 試験船東奥丸と青鵬丸によって漁場調査を実施した。

1. 日本海は全般に極度の低水温にみまわれ, 本県対馬暖流域では夏～秋にかけ50m以浅では高温であったものの, 総じてはなほだしく冷水勢力が強かった。
2. 期間中, 東奥丸で29回, 青鵬丸で21回, 計50回の漁獲試験により, スルメイカ6,746尾が釣獲された。これは昭和58年の約3分の1で低調に終わった。
3. 海況の影響で来遊時期が1ヶ月程遅れ, また6月は魚体が昨年に比べ5cmも小さかった(ML 15～16cm)。
4. 日本海からの総水揚量は28,337トンで昨年より沿岸・沖合域とも低調であったが, 沿岸漁場の水揚は極度に不振だった。